5-3　インシデント

インシデントとは、鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事態をいいます。
２０１８年度は、施設障害に分類される事象が１件発生しました。

●長崎本線　吉野ヶ里公園駅構内で踏切遮断機が片側降りきれていない状態で列車が通過

発生日時：　2018年8月20日　0時08分頃

発生場所：　長崎本線　吉野ヶ里公園駅　鳥の隈踏切

概　　況　：　吉野ケ里公園駅構内で準備中の鉄道作業員により、列車通過時に鳥の隈踏切の片側しゃ断機が降下途中で停止しているのを認めた。関係社員が調査したところ、列車通過時に該踏切が正常に警報していることを確認したが、片側の遮断機が降下途中で停止することを認めたため直ちに復旧作業を行った。
これによる　列車の遅延はなかった。。

原　　因　：　遮断機のブレーキ基板の損傷（メーカ不具合）によりブレーキがかかったため。

対　　策　：　・JR九州の同種踏切遮断機（1500台）のブレーキ基板を改良型に取替えた

6　平成30年7月豪雨における災害

■「平成30年7月豪雨」による災害

九州各地において鉄道設備に210件の被害があり、九州内の計22路線で運休が発生しました。JR九州管内の被害箇所数の内訳は、鹿児島本線40箇所、筑豊本線36箇所、日豊本線27箇所、その他線区107箇所となり、主な被害としては切取斜面の崩壊や盛土の流出、線路への土砂流入、及び線路冠水等がありました。

［切取斜面の崩壊］

［盛土流出］

［線路冠水］

［土砂流入］

筑豊本線（原田線）の桂川～原田間は、大規模な切取崩壊や盛土流出を含め28箇所の災害が発生したため、長期間の運転休止を余儀なくされましたが、関係者、関係機関のご尽力により協議及び各種の工事を鋭意進めた結果、災害発生から約8ヶ月で全線を復旧することができました。

［被災時］

［復旧］

＜災害発生から運転再開までの主な経緯＞

2018年	7月	6日	豪雨により多数の路線にて運転見合わせ（最大：在来線22路線）
	7月	19日	筑豊本線（原田線）　桂川～原田間を除き運転再開
2019年	3月	9日	筑豊本線（原田線）　桂川～原田間運転再開